

平成25年度用新課程教科書 執筆にあたって



7実教 情報301

情報の表現と管理

東京女子体育大学准教授 榎本 竜二

この科目はその名の通り、情報を適切に表現・管理できることを目標としている。1年次からの履修も考えられるため、前提として必要となる基礎的な内容や手法から学習できるように留意している。「情報」に関する高度な知識や技術を身に付けるためには、誰にでも必要となる実践的な内容が詰まっている。具体的にどのようなことを学習していくのか、以下に説明していきたい。

私たちは普段、何げなく様々な情報に接しているが、明確な区分や役割を考えて見ているわけではない。教科書の冒頭では、これをメディアとしての分類や特性で整理することで意識化させ、街中にも実は情報が溢れていることに気付かせるようになっている。登下校の最中に目にする標識や駅のアナウンスにも、情報としての意味があることを知り、日常生活と情報の密接な関係を知ることになる。校内や街中にある貼り紙までもすべて教材になってしまうのである。身の回りの情報に気付いたところで、「誰かに何かを伝えるもの」としての役割を思い出させ、情報を発信する（表現する）ということとは、誰かとコミュニケーションをとることである、という方向に持っていく。それがあって初めて、この科目を学習する意義と最終的な目的を意識することができるようになる。皆さんも、この教科書とともに世の中に溢れる実践的な教材を、ぜひうまく活用してほしい。

具体的な内容は、この科目の前身である「情報と表現」を引き継いでいる。文書や図解、画像、音、動画といった基本的な分野の基礎知識を学習する。例えば文書であれば5W1Hや起承転結のような国語からの連続性を重視した内容に触れつつも、フォントの種類や効果についても学習できるようになっている。また、絵に描かれているものをすべて画像として単純に整理することなく、冗長な文字列を箇条書きに整理したものや表

であっても「図解」の第一ステップとし、あくまでわかりやすい表現のために使われる1要素であることがわかるようにした。意味なく表やグラフを作るのではなく、伝えたい内容が文字になり、表やグラフ、そしてさらに理解を助ける図につながっていく。音や動画については、前回の教科書から10年以上が経過し、取り巻く環境が大きく変わったことにも配慮し、変わらない基本的なことだけではなく、これから定着するであろう技術用語も盛り込んだ。知識や技術を淡々と解説するのではなく、すべて実践的な実習を行うことで具体的に理解できるように構成している。これらの知識や技術を習得したところで、すべてを使ったプレゼンテーションを行えるように、計画の立案の仕方から身なりに至るまであらゆるポイントを網羅している。もちろん、最大の表現の場であるインターネットについても、背景となる技術を理解しながらも、著作権やモラルに配慮できるような知識が身に付く構成になっている。

今回から新設された「情報の管理」部分は、作られた文書やデータファイルを世間一般ではどのように管理しているのかがわかるようになっていく。電子データだけではなく紙の文書管理手法から学び、報告書や契約書などのサンプルを豊富に提示している。一般企業でも情報系企業でも、増えていく紙やデータを情報資産としてとらえ、どのように分類・整理・保管すれば、短時間で効率的な検索が行えるのかを理解できるとともに、「保護」の部分にも焦点を当てセキュリティについても考えさせている。

以上のように「情報とは何か」を理解したうえで、その「表現」を知り、（配慮事項を意識しながら）ためしに作ってみて、（安全に効率的に）「管理」の手法を学習するには最適な教科書として作られている。